

土樋キャンパス ホーイ記念館
平成30年9月13日～12月6日
毎週木曜日18:30より

東北学院大学

今年のテーマは脱「あたりまえ」

「あたりまえ」を覆す最前線の研究

社会で生じる「あたりまえ」と関連した諸問題

日常生活を豊かにする「あたりまえ」でない知識

多様な視点から「あたりまえ」を捉え直す面白さ

一緒に味わいませんか？

主催 東北学院大学教養学部
東北学院大学人間情報学研究所

受講料 無料

※興味あるテーマだけの受講も歓迎します

教養学部設置30周年記念
大人の教養倶楽部
脱「あたりまえ」
の教養学

本講座は、教養学部における知的営みの面白さと幅広さを広く知っていただくことを目的として開講するものです。

今年度は「脱『あたりまえ』」をキーワードとして、講師それぞれの研究分野のトピックスを分かりやすく解説していきます。科学の最前線で行われている「あたりまえ」を覆す研究、「あたりまえ」と関連しながら社会で生じる様々な問題、日常生活を豊かにしてくれる「あたりまえ」でない知識など、教養学部ならではの幅広い学問領域からの多様な講義により、21世紀に生きる我々の教養に不可欠な、「ものごとを多様な視点から捉える」ことの楽しさをお伝えします。

第1回 (9/13) 「あたりまえ」の変化と社会の変化

神林 博史

日本停滞の原因は、かつての「あたりまえ」にあり？社会のしくみと「あたりまえ」の関係について考えます。

第2回 (9/20) 脱「スポーツと健康」の教養学

黒須 憲

「健康のためにスポーツをしましょう。スポーツは健康によい」は幻想です。スポーツと健康の関係を改めて検討します。

第3回 (9/27) インターネットの常識、非常識の変化

乙藤 岳志

インターネットの常識・非常識は時代と共に変化してきています。興味ぶかい歴史的なトピックから、将来の常識を探してみます。

第4回 (10/4) デザイナーベイビーの時代がやってくる —ゲノム編集の倫理的問題— 小林 睦

ここ数年で急速に発展した「ゲノム編集」の倫理的問題点について、積極的優生の観点から考察します。

第5回 (10/11) 市民の力は「微力」か？

和田 正春

今日社会課題の解決における市民の役割はますます大きくなっています。市民の力とは何か？市民は弱いものでも助けられるだけのものでもありません。新しい市民の役割についてお話しします。

第6回 (10/18) 知覚と意識の心理学が覆した「あたりまえ」とは

櫻井 研三

眼に見えているはずのものが意識できないという錯視現象などから、知覚心理学が明らかにしてきた「あたりまえ」では無い様々な例を紹介します。

第7回 (10/25) 非日常としての留學生活

楊 世英

国際交流部長を務めた経験から、グローバル感覚の重要さと留學の魅力をご紹介します。

第8回 (11/1) 常識を超える宇宙を空想する

村上 弘志

宇宙は人間の想像を超え「あたりまえ」を裏切り続けています。その歴史を追い、最新理論やSFなどを参考に「本当の宇宙」を空想します。

第9回 (11/8) 催眠で自分を操る

清水 貴裕

催眠現象に関する研究知見を紹介し、私たちが自分に対して行っている暗示の意義について考えます。

第10回 (11/15) なぜ「30年間で発生確率0.02%」の地震が起こるのか？ 柳澤 英明

日本各地で多発する地震や津波。私たちの命と財産を守るため、災害情報をどのように活用していくべきかを考えます。

第11回 (11/22) 足し算・引き算は交換可能か

佐藤 篤

無限個の数の足し算や引き算では、計算を行う順番によって結果が変わり得ることを具体的な例を通して紹介します。

第12回 (11/29) 英語教育のあたりまえはあたりまえでない？

渡部 友子

英語は早く始めるべき、文法は重要、などの通説には「ただし書き」が必要です。英語教育の論点を多角的に考察します。

第13回 (12/6) 仙台四郎が現代に語りかけるもの

大澤 史伸

人間「仙台四郎」と神になった「仙台四郎」が現代に語りかけるものとは？